

ふじのくに

新春号

NO.
140
2003.1.1

砂防だより



雲上の輪（静岡市山伏岳）

年頭のご挨拶	2
2002年しずおかの砂防10大ニュース	
平成15年度 政府予算案閣議決定	3
全国治水砂防促進大会	
静岡の砂防100周年記念	4
記念式典、記念講演会、記念碑除幕式 安倍川SABOウォーク	
市町村等砂防担当職員研修	7
東海地区砂防協会支部長会議	
わかまちの砂防	10
(賀茂村・函南町・川根町・湖西市)	
砂防関係の主な行事(H15.1~6月)	12

特集 静岡の砂防100周年記念
記念式典及び記念碑除幕式開催

速報 平成15年度 政府予算案閣議決定

全国治水砂防協会静岡県支部

年頭のご挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 齊藤滋与史

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当協会支部に対する暖かいご理解と絶大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、静岡の砂防100周年記念式典を挙行し、先人の叡智と労苦を讃えるとともに、年間を通じ、県と協力し様々な記念事業を実施し、砂防事業の普及・発展を図ったところ、会員の皆様には並々ならぬ御協力を賜り、重ねて厚く御礼申し上げます。

今年も、県の新総合計画の基本理念でもある「富国有徳」の魅力ある地域づくりを目指し、土砂災害に備えた安全社会づくりを進めるため、県の実施する施策及び事業に協力してまいり所存でございますので、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

2002年静岡の砂防10大ニュース

- 1 静岡の砂防100周年 記念式典、記念碑除幕式の開催
11月1日、県が砂防工事に着手して100周年を迎えたことを記念し、砂防事業に対する県民の理解と関心を高めるため、記念式典及び記念碑除幕式を開催しました。
- 2 木和田川砂防堰堤・流路工が登録有形文化財に登録
文化審議会で、大正初期に完成した岡部町の木和田川砂防堰堤8基と流路工が登録有形文化財に登録され、木和田川砂防施設全体が保全、活用されることになりました。
- 3 平成14年発生土砂災害に災害関連緊急事業3件採択
平成14年は、7月の台風6号や10月の台風21号の豪雨を中心に県内で42件の土砂災害が発生し、この内3件を国の災害関連緊急事業に要請したところ採択されました。
- 4 市町村長等雲仙普賢岳噴火災害の復興状況等を視察
8月22～24日、雲仙普賢岳噴火活動による被災地、土石流災害現場及び復興状況を視察し、平常時及び災害発生時の地方自治体の危機管理対策の研修をしました。
- 5 土砂災害防止法指定検討委員会の開催
9月20日、土砂災害防止法の運用のために、学識経験者や国、市町村、住民からの意見・助言を求める第1回委員会を開催しました。
- 6 土砂災害危険箇所位置情報の提供
土砂災害による被害防止のため、7月からインターネットで、土石流・地すべり・がけ崩れ等の土砂災害危険箇所5,161箇所の位置情報の提供を開始しました。
- 7 静岡県議会 治山・砂防事業推進議員連盟が現地視察
3月26日、砂防事業の推進を目指す同連盟が、安倍川流域の砂防関係事業の現地視察を実施しました。
- 8 県民参加の各種記念行事の開催
静岡の砂防100周年を記念して、1月24日の砂防講演会、8月20・21日の県内3カ所での砂防事業現場見学会、11月10日の「安倍川SABOウォーク」等、年間を通じて、土砂災害防止に関する各種行事を実施しました。
- 9 国際交流 台湾砂防視察団など本県の砂防施設視察
1月16日に台湾国立成功大学謝教授、2月25日に台湾行政院農業委員会大地工程所の藩所長他7名、6月12～13日に台湾行政院農業委員会水土保持局の呉局長他5名が県内の砂防施設を視察しました。
- 10 静岡市・清水市都市山麓グリーンベルト協働作業スタート
清水市大内地区で、土砂災害に強い砂防樹林帯の育成のため、地域住民やボランティアと協働して竹の伐採作業等を行いました。

速報

平成15年度 政府予算案閣議決定

12月24日、平成15年度の政府予算案が閣議で決定されました。砂防関係の決定額は下記のとおりです。

■ 河川局所管予算決定額（事業費）

（単位：億円）

事 項	前年度予算額 (A)	15年度内示額 (B)	対前年度比 (B/A)	備 考
砂防事業 (地すべりを含む)	3,157	3,023	0.96	1. 砂防関係事業のみ抜粋 2. 道路関係社会資本分、 特定治水等を含む
急傾斜地崩壊対策事業 (雪崩対策を含む)	880	845	0.96	
砂防関係事業 計	4,037	3,868	0.96	

「全国治水砂防促進大会」開催される

11月26日、全国治水砂防促進大会が東京都(千代田区)の砂防会館で開催されました。

当日は、全国から2,000余名の会員が参集し、当支部からも総勢36名の会員のご出席をいただきました。

大会は、綿貫全国治水砂防協会長の挨拶に始まり、副国土交通大臣の祝辞を青山国土交通省事務次官が代読されました。続いて、会員の小野釜石市長(岩手県)、奥本室生村長(奈良県)からの意見発表があり、その後、大塚大会副会長より今後の活動方針の提案が行われ、大久保理事長が決議を発表し、満場一致で採択されました。

大会終了後、当支部会員の皆様により、地元選出国議員19名をはじめ、財務省、国土交通省へ本県支部要望書、全国治水砂防協会要望書、全国治水砂防協会代表理事会決議文を持ち、平成15年度予算の確保に向けて要望活動を行いました。

お忙しい中ご出席をいただきました会員の皆様には厚く御礼申し上げます。



● 主な要望事項

- 1 富士山の火山砂防対策の推進
- 2 直轄砂防事業の推進
- 3 補助砂防関係事業の推進

【 参加市町村 】

静岡市、清水市、富士宮市、掛川市、袋井市、天竜市、賀茂村、修善寺町、土肥町、函南町、菰山町、大仁町、天城湯ヶ島町、中伊豆町、小山町、富士川町、蒲原町、由比町、岡部町、金谷町、中川根町、本川根町、御前崎町、相良町、浜岡町、森町、春野町、龍山村、佐久間町、水窪町、新居町、細江町、引佐町

特集

静岡の砂防100周年

平成14年11月1日(金)、静岡の砂防100周年記念事業のメインイベントである「静岡の砂防100周年記念式典・記念講演会」、「静岡の砂防100周年記念碑除幕式」が開催されました。

1 記念碑除幕式

記念碑は、本県の砂防事業発祥の地である安倍川流域に設置しました。石碑は国土交通省静岡河川工事事務所のご好意により、安倍川上流の現地発生材を使用しました。また、碑文は石川静岡県知事の直筆により「静岡砂防百年」と刻まれ、趣のある記念碑に仕上がりました。

11月1日午前に開催された除幕式は、主催者を代表して知事、全国治水砂防協会静岡県副支部長の原田袋井市長、来賓には国土交通省の岡本砂防部長、清治中部地方整備局長をはじめ、上川衆議院議員、大久保全国治水砂防協会理事長や県議会議員、市町村長、地元住民、砂防功労者等、雨天にも関わらず、約100名の出席を頂くとともに、記念碑の除幕や記念植樹は、地元牛妻保育園児にも協力して頂き、和やかなうちに終わりました。

〈記念碑除幕式〉

- | | | |
|------|-------|------------------------------|
| ① 開 | 会 | |
| ② 挨拶 | | 静岡県知事 |
| ③ 祝 | 辞 | 国土交通省砂防部長
上川衆議院議員
静岡市長 |
| ④ | 記念碑除幕 | |
| ⑤ | 記念植樹 | |
| ⑥ | 閉 | 会 |



記念碑除幕（静岡市牛妻）



記念式典（岡本砂防部長による祝辞）

2 記念式典・記念講演会

同日午後開催された記念式典は、除幕式に引き続いて岡本砂防部長、清治中部地方整備局長、大久保全国治水砂防協会理事長をはじめ、国政の多忙なか、斉藤衆議院議員、海野参議院議員にもご出席を頂きました。

開会に先立って、砂防事業を理解して頂くため、本県を襲った災害と復興の歴史をVTRで紹介しました。

式典では、鈴木副知事、原田副支部長の開会挨拶に続いて、岡本砂防部長、斉藤衆議院議員、森県議会議員より祝辞を頂いた後、本県の砂防事業推進にご尽力をされた歴代県土木部長・砂防課長、砂防ボランティアや砂防指定地監視員の方々の紹介を行いました。

また、会場には多数の県民も来場され、380名の定員を超える大盛況となり砂防について理解を深めていただきました。

〈記念式典・記念講演会〉

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 序 | VTR上映「静岡の砂防100年」 |
| ① 開会挨拶 | 副知事・全国治水砂防協会静岡県副支部長 |
| ② 祝 辞 | 国土交通省砂防部長・斉藤衆議院議員
県議会議員 |
| ③ 来賓紹介 | |
| ④ 静岡の砂防100年 | 県砂防統括監・河津町長 |
| ⑤ アトラクション「砂防って何？」 | 解説/横添ふるさと会・県砂防ボランティア協会 |
| ⑥ 絵画・ポスター・作文・写真コンクール優秀者表彰 | |
| ⑦ 記念講演「山を訪ね、川に想う」 | 青木奈緒氏 |
| ⑧ 閉 会 | |

静岡の砂防100年

本県の砂防事業の歴史と地域の取り組みについて、山崎砂防統括監より「本県の砂防事業のあゆみ」、櫻井河津町長より「地域社会と土砂災害防止について」の報告を行いました。



山崎砂防統括監の報告



櫻井河津町長の報告

アトラクション「砂防って何？」



アトラクション「砂防って何？」

続いて行われたアトラクション「砂防って何？」では、来場者により砂防について知って頂くため、砂防ボランティアや砂防施設の維持管理に協力して頂いている民間団体の方に、クイズを交えながら、砂防について身近な視点で解説をして頂きました。

クイズの出題には、2003年開催の静岡国体や2004年開催の浜名湖花博のマスコットも参加して、会場から笑いがこぼれるなど、砂防について楽しくより関心を深めて頂くことが出来ました。

絵画・ポスター・作文・写真コンクール優秀作品の表彰

静岡の砂防100周年を記念して募集した土砂災害防止に関する絵画や写真等の作品について、優秀者の表彰を行いました。なお、優秀作品を含め応募作品（小中学生、一般）約150点を会場に展示し、来場者の皆様に見て頂きました。

受賞者のみなさん

静岡県知事賞（絵画）	佐野 匠 さん（芝川町立芝川中学校3年）
全国治水砂防協会静岡県支部長賞（ポスター）	伊藤 良 さん（藤枝市立西益津小学校5年）
土木部長賞（ポスター）	若林美恵子さん（島田市立島田第一中学校1年）
土木部長賞（作文）	齋藤陵賢 さん（小山町立足柄小学校3年）
土木部長賞（写真）	秋山 潤 さん（静岡市池田）



表彰式

記念講演会



講演会

式典に続いて記念講演会を開催しました。講師には、エッセイストの青木奈緒氏をお招きし、「山を訪ね、川に想う」をテーマに砂防にちなんだ講演を頂きました。青木氏は、本県の大谷崩れなどをはじめ全国の崩壊地を訪ねたエッセイ「動くとき、動くもの」を執筆されており、今回の講演では和服姿で登壇し、祖母幸田文氏の思い出を織り交ぜながら、「崩れ」に対する想いなどを話され、来場者は大変興味深く聞き入っていました。

特集 静岡の砂防100周年

●静岡の砂防100周年記念

「安倍川SABOウォーク」開催される

11月10日、「安倍川SABOウォーク」が開催されました。

「安倍川SABOウォーク」は、毎年、国土交通省静岡河川工事事務所が主催し、日本三大崩れのひとつである「大谷崩れ」を中心に、自然の驚異を身近に感じるとともに、その自然と対峙してきた砂防事業への理解と関心を深めていただくために行っております。

本年は、「静岡県の砂防100周年」記念事業の一環として、静岡県との共催で行いました。

当日は、絶好の秋晴れのもと、242名もの応募の中から抽選で選ばれた61名がマイクロバス3台に分乗し、「郷島地区」急傾斜地崩壊対策事業、直轄施工以前（大正13年から昭和14年頃）に大谷川で県の施工した石積堰堤、大谷崩れの「山腹工」や「本谷ダム」等の砂防施設を見学するとともに、盛りの紅葉を楽しむことができました。

参加者からは、「大谷崩れのすごさや砂防の重要性が判った」「来年も是非やってほしい」との感想が聞かれました。



参加者の皆さん（大谷崩れ）

100周年記念出版物 記念品コーナー



「静岡の砂防百年」
ビデオ(13分)



「静岡の砂防百年のあゆみ」
パンフレット



「静岡の砂防百年」
ポスター



しおり

砂防の広場

～地域の声～

「遠州灘海岸砂浜保全の歴史を後世まで伝承したい」

菊川河口を含む遠州灘の海岸砂防の歴史について、大東町在住の佐藤国雄さん（元町議会議員）は当時の体験談を次のように語っています。海岸砂防事業を行う上で、とても参考になると思われます。



◆佐藤さんの体験談

戦後の荒廃した状況の中、砂浜の保全に次のような地元住民による必死の努力が払われた。

- 昭和30年以降、電気・ガスの普及により不要となった各家の防風林の枝を“粗朶”として使い、飛砂防止と砂浜の南側への延伸を図った。
- 昭和48年、防潮堤が完成したが、その後一時的に防潮堤の前面が洗掘を受けた（コンクリート構造物を突然造っても現地には馴染まない）。
- 菊川河口の導流堤は、最初テトラポットで造ったが流失した。現在は、鋼矢板で出口の狭い導流堤にしてうまくいっている。



昭和14年頃の菊川河口



- 地域によっては砂丘の砂を売却したことが原因で、その後砂丘が消滅してしまった。大東町は官民挙げて売却を規制したおかげで砂丘が保全されている。
- 砂丘周辺の防風林は、地元住民の大変な努力により育成されたものであり、子々孫々まで保全していく必要がある。この育成には5～10メートル四方程度の大きさを一つの単位にしたほうが松の生育には効果があると思われる。
- 海岸堤防や自転車道などを計画する場合は、砂浜の性格をよく知っている地元住民の意見を是非とりいれてもらいたい。

市町村等砂防担当職員研修

神奈川県内の砂防施設を見学

11月14～15日、市町村等砂防担当職員の研修会を開催し、39名の参加がありました。

初日は、砂防室職員が講師を務め、各事業の概要等について説明を行いました。また、終了後には質疑応答が行われ活発な意見交換がなされました。

2日目の現場研修は、神奈川県砂防海岸課の協力を得て鎌倉市、江ノ島、箱根町等での景観に配慮した砂防関係施設を見学しました。

この研修は、今年も引き続き開催する予定ですので、各市町村の積極的な参加をお待ちしております。



講義の様子



「早川」砂防環境整備事業現場にて

日程

11月14日 砂防に関する講習

- 土砂災害の発生状況について
- 砂防関係事業（施設整備）について
- 砂防関係事業（ソフト対策）について

11月15日 現場研修〈鎌倉市～箱根町〉

- 「山の内瑞鹿山」急傾斜地崩壊対策事業現場
- 「江ノ島」急傾斜地崩壊対策事業現場
- 「早川」砂防環境整備事業現場

【参加市町村】

静岡市、浜松市、沼津市、清水市、熱海市、富士宮市、伊東市、島田市、富士市、焼津市、掛川市、藤枝市、袋井市、裾野市、南伊豆町、天城湯ヶ島町、小山町、芝川町、富士川町、由比町、岡部町、金谷町、御前崎町、相良町、榛原町、吉田町、大須賀町、小笠町、菊川町、豊田町、春野町、水窪町、新居町、細江町、引佐町

参加者の声

南伊豆町建設課 佐藤幸司主事

箱根町箱根湯本の早川流域は、散策路や階段護岸工が整備され、潤いと安らぎをもたらす「箱根の玄関口」にふさわしい親水空間が現出していた。その空間も以前は、関東大震災や北伊豆地震、大水害、台風など度重なる災害により甚大な被害を受けたという。この地区に限らず土砂災害が発生する危険性はどこにでも潜んでいると改めて感じました。砂防事業は、土砂災害から人命、財産を守り、人々が安心して暮らしていくために必要不可欠な事業であり、今後も更に力を注いでいかなければならないとこの研修を通して感じました。

袋井市土木課 和井内とも子技師

今回初めて研修に参加し、災害は施設だけで防げるものではなく、人と人とのつながりによって人災にならずに済むこともあるということを知りました。また、住民との協働、自然環境への配慮などが土木一般、行政一般にこれから必要であることを再確認させられました。自然の営みは人のそれに比べゆっくりではあるけれど、自然の崩壊は時として人の時間より早く、想像もしない巨大な力を持っています。子供たちにも自然の優しさや怖さを知ってもらいたいと思いました。砂防100周年という記念すべき年にこのような研修を受けることができたことに感謝いたします。

平成14年度「東海地区砂防協会支部長会議」開催

11月21日、東海地区砂防協会支部長会議が熱海市で開催されました。会議には、国土交通省砂防部より杉浦火山土石流対策官、全国治水砂防協会より小林理事、各県支部長・砂防課長が出席し、静岡県からは副支部長の原田袋井市長、山崎砂防統括監が出席しました。



芹沢函南町長の説明

会議では、国土交通省や協会本部から砂防に関する近況の報告等、各県支部の活動状況の報告及び「砂防に何を期待するか」、「砂防は何をすべきか」について意見交換を行いました。

翌22日は、小谷之沢災害関連緊急砂防事業、柿田川湧水群、桃沢川砂防事業の視察を行いました。小谷之沢では、芹沢函南町長より平成10年の被災状況と、人的被害を未然に防いだ函南町畑の自主防災会活動等についての説明をしていただき、大変有意義な視察になりました。



会議の様子

平成14年度「東海地区砂防担当者会議」開催

11月5日～6日、東海地区砂防担当者会議が本県富士宮市で開催されました。東海4県の砂防担当者のほか、国土交通省保全課山本補助砂防係長、中部地方整備局水谷専門官等を迎えて、各県の抱えている問題についての活発な意見を交換しました。6日は、緑の砂防ゾーンとして施工した麓川の火山砂防事業、直轄事業で行なっている大沢崩れ対策を見学しました。出席者は、大沢扇状地での土石流対策のスケールの大きさに驚いたようでした。



富士宮市内にて

グリーンベルト協働作業で竹林伐採と管理道整備



管理道の整備作業

11月17日、都市山麓グリーンベルト（砂防樹林帯）の整備を進めている清水市大内地区で、住民・ボランティアと協働して、竹林伐採作業と管理道の整備を行いました。

今回は大内地区自治会、森林保護グループ、高部小PTA及び行政関係者62名が参加しました。

参加者は3グループに分かれ、砂防堰堤背後地の竹林伐採作業と、間伐を使っての階段や管理道の整備を行いました。

作業後、大内公民館での意見交換会では、今後の作業会の運営等についての意見・提案が数多く出されました。

今後も活動を行っていきますので、皆さんの参加をお待ちしております。

自主防災組織リーダーを対象とした講習会開催

10月24日、袋井市の自主防災隊長145名を対象に、「土砂災害に関する講習会」を開催しました。講習会では、砂防室の職員が土砂災害の実態、前兆現象等の説明や、対策工事によって人命が保全されていることなどの説明をしました。

市町村を対象とした講習会の取組みは、平成10年度から実施しており、今年度は既に8回実施しました。参加者からは「土砂災害への知識が深まった」などの意見が寄せられており、土砂災害に対する県民意識の啓発に役立っています。

今後も、土砂災害危険箇所が多い市町村や開催希望の市町村を中心に講習会の輪を広げていく予定です。



袋井市役所にて

～地域防災訓練と協働した～土砂災害出前講座を開催



峰山小体育館にて

「地域防災の日」である12月1日、静岡市立峰山小学校で土砂災害の講習会を開催しました。これは町内会・消防団・小学校が共催する防災訓練の一環で、児童や教職員、地元住民など約50名が参加しました。

講習会では、土砂災害とはどういう災害なのか、何に気を付ければよいのか等を、県砂防室で作成したCD-ROMや副読本を使用し説明しました。また、小学校付近には「蛇塚地すべり防止区域」があることから、参加者から数多くの質問がでるなど、大変有意義な出前講座となりました。

全国地すべりがけ崩れ対策協議会研究発表会で 本県の事例を発表

10月9日～11日、山梨県甲府市において「全国地すべりがけ崩れ対策協議会 平成14年度技術研修会並びに第56回研究発表大会」が開催されました。(本県から6人参加)

研究発表会では、本県の砂防室傾斜地保全係広瀬主任が「土砂崩れ防ぎ“一石二鳥”〈岩地西の田 特定利用斜面保全事業〉」と題し、松崎町岩地地区において住民の安全度の向上とともに、災害時の避難場所や観光客等の駐車場を確保するため、静岡県と松崎町が共同で特定利用斜面保全事業(国庫補助急傾斜地崩壊対策事業)を実施した事例を発表しました。



「岩地西の田」地区全景(松崎町)

第15回(平成14年度) 砂防研究報告会の開催

10月8日～9日、砂防会館において「第15回(平成14年度)砂防研究報告会」が開催されました。

研究報告会は、「総合的な土砂管理の推進について」、「砂防事業における自然環境モニタリングについて」、「土砂災害情報の提供と警戒避難について」、「砂防関係事業における工事中の安全対策について」、「砂防ソイルセメント工法について」の5分科会に分かれ、各行政機関の日頃の研究報告が行われ活発な討議が交わされました。

また、国土交通省岡本砂防部長の「安全と環境の21世紀」と題した、土砂災害の原因からみた砂防事業の歴史やこれからの砂防事業についての講演と、人間環境大学小橋澄治教授の「21世紀の砂防」と題した土砂災害防止法とその課題についての講演が行われました。



『インタープリvent2002ポストコングレスツアー』で 本県の土砂災害雨量情報システム視察

10月14～18日、長野県松本文化会館で国際防災学会「インタープリvent2002」が開催され、ヨーロッパ・アルプス地域を中心に14ヶ国をはじめ内外約400人の砂防関係研究者による発表、討議が行われました。

会議終了後のポストコングレスツアーとして、10月19～22日に砂防関係の現地視察が企画され、本県の富士山大沢扇状地と静岡県庁で行われました。ドイツ、フランス、オーストリア、ルーマニア、チェコからの参加者9名は、22日に静岡県庁内の土木防災情報センターで本県の土砂災害雨量情報システムの視察を行いました。



ポストコングレスツアーの皆さん

その他の 行事

平成14年	9月26日	都市山麓グリーンベルトWG(東京都)
	10月3日	富士川総合土砂管理対策全体会議(さいたま市)
	10月4日	全国河川砂防主管課長会議(東京都)
	10月17日	ネパールJICA研修生口坂本現地視察(静岡市)
	10月22日～24日	地すべり現地討論会(熊本市)
	10月29日～30日	東海4県地すべり・急傾斜担当者会議(岐阜市)
	11月7日～8日	全国地すべりがけ崩れ対策協議会理事会(鹿児島市)
	11月25日	全国砂防主管課長会議(東京都)

わがまちの砂防

賀茂村

賀茂村 建設課長 加藤 勇

賀茂村は駿河湾に面した伊豆半島西海岸の中央に位置し、土肥町、西伊豆町、天城湯ヶ島町に接し、村域の93%を山林原野が占め、少ない平地に3,600人余が暮らしています。温暖な気候や豊かな自然、温泉などに恵まれ、山では「牧場の家」を中心とした整備が進み、里では50年余の歴史を持つガラス産業を生かしたガラス文化の里を目指し平成9年に黄金崎クリスタルパークがオープンし、海城では海水浴や釣り、スキューバダイビング等に年間を通して利用される観光立村を目指す村です。



黄金崎クリスタルパーク



飛島急傾斜地

昭和33・34・36年の大災害を受けてから先人達の努力により河川改修や砂防事業が施され、近年では大きな災害を受けることは少なくなりました。急峻な山林を背に受けた集落には、急傾斜地崩壊対策事業が昭和54年から進められ既に13ヶ所が整備されていますが、急傾斜地を背負っている住宅地はまだあります。住民が安全で安心して生活できる環境づくりに、関係各位のより一層のご支援ご協力をお願いいたします。

函南町

函南町 建設課長 松下文幸

函南町は、伊豆半島の玄関口に位置し、箱根山頂から西に向って、山間地、丘陵地、平坦地に大分され、特に山間地は標高1,004mの鞍掛山、799mの玄岳に囲まれた豊かな自然景観を有しています。

しかし、この山間地の箱根山系鷹ノ巣山690m付近に源を発する小谷之沢は、西流して、一級河川柿沢川へ注ぐ荒廃溪流であり、伊豆スカイラインから丹那盆地外周部に散在する集落までが急峻な地形をなしており、ふもとの畑地区は常に土砂災害の危険にさらされてきました。



小谷之沢災害関連緊急砂防事業

平成10年8月末の豪雨により発生した土石流は、畑地区の住宅地を直撃し、丹那盆地内の農地にも土砂が流入し、甚大な被害を受けました。この小谷之沢砂防堰堤は、災害関連緊急砂防事業及び火山砂防事業として、迅速な対応と早期の事業実施により、平成12年3月に完成し、地域住民の安全な生活が確保されました。

当町も山間・丘陵地が町土の3分の2を占めるという地形の中で、今後とも住民が安心して生活できる環境づくりのために、関係機関の皆様方のご指導・ご支援を賜りながら、土砂災害の防止に努めていきたいと思っております。

湯〜トピア 函南
IZU KANNAMI SPA

天然温泉入浴処「湯〜トピア」函南（平成14年10月オープン）



川根町

川根町 建設課長 米澤国雄

川根町は静岡県のほぼ中央に位置し、大井川の中流域にある緑豊かな町で、高い品質を誇る「川根茶」の産地として知られております。平成10年度には豊かな湯量が自慢の「川根温泉ふれあいの泉」がオープンし町内外の人が訪れる憩いのスポットとなっております。

さて、町の中心、家山地区の中央に位置する丘陵地の「天王山公園」は、ソメイヨシノ桜の名所と共に360度の展望が満喫できる公園として多くの方に親しまれております。反面、脆弱な地質の山裾周辺には56戸の人家が位置してお



天王山急傾斜地

り、降雨の度に崩壊が発生し、これに対処する為、平成3年度から平成8年度にわたり、「住民の立場」に立った事業コンセプトの下、景観に配慮した「天王山急傾斜地崩壊防止対策工事」が施工され、地域住民の安全な生活が確保されました。なお、町内には10ヶ所の急傾斜地崩壊防止対策工事が施工されました。町民が安心して快適な生活が営めるよう、これまで整備された施設の維持管理に努め、今後とも国・県をはじめとする関係機関のご理解をいただき、災害対策に万全を期していきたく思います。



川根温泉ふれあいの泉

湖西市

湖西市 都市住宅課長 濱島範雄

湖西市は、静岡県の最西端に位置し、東をわが国でも指折りの汽水湖である浜名湖に、南を黒潮洗う遠州灘に面し、西北には赤石山系から続く湖西連峰の山々を有する自然豊かなまちです。北は三ヶ日町、西は愛知県豊橋市に接し、東京と大阪のほぼ中間にあたります。

自動車関連の輸送機械や電気機械の製造を中心とした工業と肉豚、鶏卵、馬鈴薯、切り花等に代表される農業とが調和した、健康で文化的な生活環境の確保と均衡のとれた発展を図ることを土地利用の理念としてまちづくりを進めています。

漁村の名残りを残す入出地区は、湖岸に面した集落の背後



湖西連峰より見る浜名湖

に傾斜地を背負う状態となっており、昭和47年には集中豪雨で住宅被害が発生するなど不安を抱えた生活を余儀なくされてきました。このようなことから、昭和48年から、県事業により擁壁等の整備が進められ、住民の安全な暮らしが守られてきています。

本市の大部分が起伏の多い洪積台地であることから、現在、市内5箇所が急傾斜地崩壊危険区域に指定されていますが、これ以外にも崖崩れ等の災害が懸念される自然斜面も多く残されていることから、住民の暮らしを守るためにも、今後の災害対策・砂防事業に対する期待は非常に大きいものがあります。



入出急傾斜地

お知らせ
コーナー

青木奈緒氏 著「動くとき、動くもの」刊行

静岡の砂防100周年記念講演会で講師をしていただいた作家青木奈緒氏によるエッセイ「動くとき、動くもの」がこの度、講談社より11月25日に単行本として刊行されました。

これは「治水と砂防」139号～148号（平成13年4月～同14年10月）にかけて掲載されており、本県の富士山の大沢崩れや大谷崩れをはじめ、崩れと人間の関わり合いについて、新鮮な感覚、冷静な視点そして暖かい心で綴られています。既刊「崩れ」（幸田文、講談社文庫）とともに是非ご覧下さい。



〈プロフィール〉

1963年4月東京都小石川に生まれる。学習院大学文学部ドイツ文学科卒業、同大学院修士課程終了。オーストリア政府奨学金を得てウィーンに留学。その後1989年より翻訳、通訳などの仕事をしながらドイツに滞在。1998年秋、帰国してエッセイ「ハリネズミの道」、2001年、小説「くすみ街道」エッセイ集「うさぎの聞き耳」を刊行。

土砂災害防止法等 実務担当者説明会

- 日 時 平成15年3月14日(金) 14:00～
- 会 場 静岡音楽館AOI会議室
静岡市黒金町1-9
- 内 容 〈講 演〉
「土砂災害防止法について」
〈報 告〉
「本県の土砂災害防止法に関する
取り組みについて」
- 対 象 県・市町村担当者
※砂防・防災・管理担当職員等を対象
とした実務説明会です
- 問合せ先 静岡県土木部砂防室
TEL 054-221-3042

●表紙写真



雲上の輪(静岡市山伏岳)

撮影:大棟 武氏(静岡市)

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しております！
皆さんの御協力をお願い申し上げます。詳しくは下記宛にお問合せ下さい。

平成15年 1-6月 砂防関係の 主な行事

- 1月23日(木) 静岡県砂防ボランティア協会総会
- 3月13日(木) 砂防および地すべり防止講習会
～14日(金) (砂防会館)
- 3月14日(金) 土砂災害防止法等実務担当者説明会
(静岡市)
- 5月21日(水) 平成15年度 全国治水砂防協会通常総会
(砂防会館)
- 5月30日(金) 平成15年度 静岡県支部通常総会
(静岡市)
- 6月 4日(水) 平成15年度 土砂災害防止推進の集い
～ 5日(木) (全国大会)(静岡市予定)

編・集・後・記

新年明けましておめでとうございます。

2002年は静岡の砂防100周年の行事が催されました。この「砂防だより」も昭和41年から発行され、今年で37年を迎えます。「静岡の砂防だより100周年」を目指し、充実した誌面で継続発行していきたいと思っております。情報提供、執筆を関係各位にお願いしておりますので御協力、また御愛読いただきますようよろしくお願い申し上げます。

今年も皆様にとって良い年となりますようお祈り申し上げます。

砂防だより

第140号 発行日：平成15年1月1日

編集・発行：全国治水砂防協会静岡県支部

〒420-8601 静岡市追手町9番6号 静岡県土木部河川砂防総室砂防室内
TEL(054)221-3042 FAX(054)221-3564 E-mail: sabo@hq.pref.shizuoka.jp

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。